

出かけてみませんか ぶらり裏みち散策

山中湖・平野地区の歴史風景に出会う。
 ・コース距離：約 5.4km ・所用時間：約 2 時間

・ロングコース距離：約 7km ・所用時間：約 2 時間 30 分

「ゆいの広場ひらり」を出発し、寿徳寺に向かいます。山の神経由て天満宮の境内を抜け旧鎌倉往還の古道に向かう山沿いの林を歩きます。昔はここが水辺の道でした。平尾山を背に古屋・赤芝間の道を湖畔に抜けます。湖畔のサイクリング道を「きらら」に向かい、富士山と湖畔のビューポイントを楽しみ来た道を集落に戻ります。集落内の横道（往還道）、口留番所を通りテニスコートやグラウンドの間を「ひらり」に戻ります。

11 フジアザミ
 この地で見られるフジアザミは国内で最も大きな、紫色の花を咲かせます。富士山中腹のスコリアや河原の砂礫地に多く見られこの名がつけられました。平野地区では、寿徳寺や大堀川の河口で見られ稀に花が白い物も見かけます。

9 屋敷林と横道
 集落の古い民家は南北に走る道志道から東西方向に交差する横道沿いに屋敷林に囲まれた造りとなっています。常緑樹のイチイ（ヘダの木）やケヤキなどを屋敷まわりや倉の回りに植え防火や防風役に役立て、集落の美しい景観を作っています。（イチイは村の木となっている）

5 山中湖のみさきと砂嘴・砂州
 風によって運ばれた富士山のスコリアが堆積し「砂嘴」を作っています。出来た岬の内側には湿性植物のヨシやツルヨシ、ヒメビシが生息し湖畔にはズミの群落が見られます。

7 平野の浜は人気の景観・撮影ポイント
 夏の赤富士・冬の紅富士・ダイヤモンド富士など四季を通じて多くのカメラマンが訪れまたCMなどの撮影にも使われています。特に「きらら」のある大堀川河口の浜は人気スポットです。

6 山中湖魚苗センター
 ここでワカサギを育て放流しています。最初のワカサギの放流は大正 11 年東京大学の雨宮育作先生によりなされ、穴釣り昭和 11 年西垣晋作先生が村民に紹介しました。

4 鎌倉往還
 東に真っすぐ走る往還は切通峠を山北町・相模に向かいます。口留番所跡からは西に集落内を曲がりくねり寿徳寺の脇と天満宮境内を通り山際を古屋、赤芝、長池に抜けます。平安・鎌倉時代には、古屋から平野峠を越え内野から鳥居地峠を越え明見に抜ける古道を親鸞や日蓮さんが歩いた様です。（史書や昔話で諸説あり）

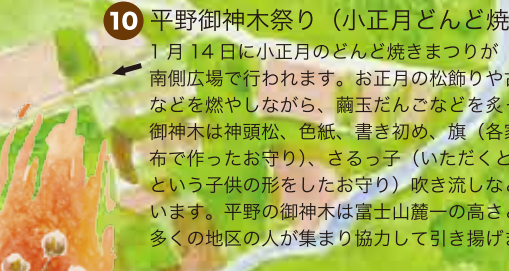
甲斐国志によると、「此地湖水ノ東平原ノ地ナレハ村名平野ト称セルラン地形又近江ノ平野ニ似タリ」と記されています。山中村の東に位置する平野集落は北を道志村、東を神奈川・山北町、東南を静岡県・小山町に、甲斐・駿河・相模の接点となります。江戸時代には平野の鎌倉往還に口留番所が設けられ相模・駿河との人と物の往来を見張る要所でした。また当地には山中湖村唯一の寺、「海雲山寿徳寺」があります。鎌倉時代に開かれ、戦国時代には武田家の祈願寺として加護されていたと伝えられています。裏道散策コースは、テニスコートやグラウンドが広がり学生のスポーツ合宿地となっている当地を旧鎌倉往還を中心に歩きながら歴史風景と変遷を散策してみます。



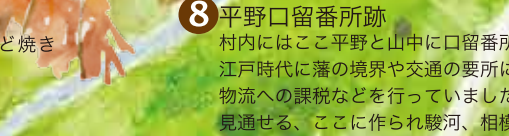
3 平野天満宮と例大祭
 平野天満宮は、学問・文化の神「菅原道真」と武勇・五穀豊稔の神「スサノオの尊」が祀られています。毎年7月14～16日「天王祭」が行われ、神輿渡御や奉納相撲・神楽が舞われます。平野地区の夏を告げる祭りです。



1 平野の古民家
 交差点の「ひらり」や、周辺の「兜造りの茅葺屋根民家」は明治初期から見られる養蚕農家の建物形式です。集落内に多く見られる長屋門も地域の農耕が盛んだったことが伺えます。なお、文化年間（1810年ころ）の平野地区は戸数 62 軒、人口 250 人馬 30 頭と記録されています。



10 平野御神木祭り（小正月どんと焼き）
 1月14日に小正月のどんと焼きまつりが「ひらり」南側広場で行われます。お正月の松飾りや古いお札などを燃やしながら、薩玉だんごなどを炙って食べます。御神木は神頭松、色紙、書き初め、旗（各家に奉納する布で作ったお守り）、さるっ子（いただく子供が授かるという子供の形をしたお守り）吹き流しなどで飾られています。平野の御神木は富士山麓一の高さと言われ多くの地区の人が集まり協力して引き揚げます。



8 平野口留番所跡
 村内にはここ平野と山中に口留番所跡があります。江戸時代に藩の境界や交通の要所に作られ、人の往来監視や物流への課税などを行っていました。切通峠や三国峠を見通せる、ここに作られ駿河、相模、甲斐の鎌倉往還を管理しました。



12 三国山ハイキング道と「小梅」
 小山町に向かう旧道と小梅。「村落の南小梅ト小湖アリ方四五町許、水此ヨリ湧出湖水二入ル」昔、ここは桂の樹が多く茂り桂川の名前の由来もここから生じたのでは？

